



写真は沖縄への修学旅行。
他には東京ディズニーランドがあった。

修学旅行



校外学習



上は国立民族博物館（万博公園内）。
左と下は北千里・青少年野外活動センターでの飯盒炊爨。
この他にも「わたしの仕事館」（京都府）、などでも行われた。



生徒会活動・クラブ活動を通じて

本校卒業生 長谷川希美

「吹田高校定時制」の受験を決めた理由は、家から近かったことと兄が行っていたというただそれだけでした。入学してみると思っていたよりも大変でした。友達とぶつかり合ったり、先生とうまくいかなかったりと、悩んだこともたくさんありました。そんな時、先生方は親身になって私達生徒の話を聞いて下さいました。朝、仕事に行ってからくる生徒が多いということもあり、授業中寝てしまうこともありました。しかし、注意はされましたが、決して怒られることはありませんでした。私はこのようなやりとりの中で、定時制というものを肌で感じる事ができました。また週に何回か、決まった授業で「しんちゃん」という障害をもった子と一緒に授業を受けることもあり、定時制のまた違った面を感じたことも覚えています。

吹高で一番の思い出は、生徒会の会長を務めたことです。とても大変でしたが、でも楽しく活動しました。体育祭の種目の決定、文化祭ではプログラムの作成、フリーマーケットの売り上げ金を募金するなど、色々な活動をしました。また芸術鑑賞会では、ゴスペルのグループ「with out you」のみなさんに来ていただいた時に、一緒に歌わせてもらったり、初めて司会をしました。

そしてもう一つの大きな思い出は、「ギター部」を作り秋季発表会に出たことです。初めて握るギターにドキドキして毎日頑張って練習しました。なかなかうまくならず、「間に合うだろうか」「うまく弾けるだろうか」「歌詞がとばないか」など不安もありました。でも当日は担任の先生や教頭先生が見に来て下さり、ドキドキしましたがなんとか最後までやりきる事ができました。あの時の達成感は忘れることができません。きっと吹高に来ていなかったら味わえなかったでしょう。私はギターを弾く楽しさ、歌うことの楽しさ、そして何よりも最後までやりきる事の素晴らしさを顧問でもあり、師匠でもある前川先生に教えていただいたような気がします。その後は文化祭でもやらせてもらいました。下手なりに一生懸命頑張りました。ステージで歌って弾けたのはとても気持ち良かったです。

定時制の良い所は、年齢層が幅広く年配の方々がいらっしゃる所と、先生方が熱心な所であると思います。クラス内で揉め事があっても、年上の方がいらしゃるとその場でビシッと怒って下さり、行事があれば率先して行動して下さり、色々と前に立ってくれました。先生方は本当に親身になって私達の話に耳をかたむけて、くだらない話を最後まで聞いて下さり、しんどい時でも「明日も学校に来よう」と思うことが出来ました。

私は吹田高校に入って「よかったな」と思いました。卒業した今でもたまに学校に遊びに行きます。ですから来年で定時制がなくなってしまうことがとてもさみしく、残念です。

答辞（平成18年度卒業式答辞）

本校卒業生 後藤 浩輝

わたしたちは本日、卒業の日を迎えることができました。

この学校で学んでよかったと心から思っています。この学校には、素晴らしい先生がいました。勉強を教えてほしいという、休日まで出てきて教えてくれた先生もいました。勉強だけではなく、社会に出てから、役に立ちそうなことをいろいろ教えてくれた先生もいました。生徒ひとりひとりを大事にし、まじめに話を聞いてくれた先生もいました。これまで、こんなによくしてくれた先生のいる学校に通ったことはありませんでした。先生方には、本当に感謝しています。

ただ、欲をいえば、もっとわたしたちに対して、きびしく接してくれてもよかったかな、と思っています。社会に出れば辛いことや苦しいことに直面するはずです。そういうときにどう対処すべきか、もっと学んでおくべきだったのではないかと思います。

いや、でも、それは自分自身ですべきことかもしれません。辛いことや苦しいことから逃げてばかりではいけないのでしょう。いやなことでも進んでやるように心がけていきたいと思います。そのときはいやでも、あとになればきっと、そのときの経験が、強い人間を作るはずだと思うからです。これから、わたしたちはそれぞれの道を歩んでいきます。それぞれの目標に向かって、そして、まだ目標のない人はそれを見つめるために、すすんでいきたいと思います。先生方とは、もうお別れですが、この学校で過ごした日々はいつまでも覚えていたいと思います。

先生方、有難うございました。

